

体育系大学における体育施設管理士養成の必要性 第2報 — 仙台大学を事例として —

小島 文雄 永田 秀隆

The need for training for managers of sport facilities at universities with a physical education department Second report
— A case study of Sendai University —
OJIMA Fumio, NAGATA Hidetaka

The purpose of this study was to investigate the necessity of training for managers of sports facilities at universities with a department of physical education. Practical examples of the past and in the future in Sendai University are also discussed in this study.

The authors of this study are currently teaching three subjects of training for managers of sport facilities. This Second Report was introduced Education System relative to Sport Facilities Manager training in Sendai University

Key words: manager of sport facilities, necessity, practical examples, safety, improving the quality of students, job hunting

I. はじめに

筆者ら(2007)は標題の第1報において研究の動機と趣旨を述べ、「体育施設管理士」資格取得の現状と、この資格を体育系大学で取得する必要性について報告をした。さらに「体育施設管理士」養成に関する本学の取り組みと資格取得に関する学生の動向を報告した。

第1報では、2006年度に行われた養成講習会を中心に報告し、2007年度から授業を通して「体育施設管理士」資格取得に取り組み始めたことについては、そこに至る経緯と概略を述べるに留まっていた。

そこで筆者らは、今回の第2報において「養成講習会」を経てさらに充実した「授業での取り組み」を紹介し、質問紙調査にて学生の動向を報告する。「体育施設管理士」養成の必要性についての詳細は第1報を参照してもらいこ

では省略する。なお今回までは、授業を通しての実践例の紹介が主となり研究としては途中経過であるが、今後は異なる視点から必要性について調査する予定である。

II. 「体育施設管理士」資格取得の現状

(財)日本体育施設協会(2008)が毎年11月前後に国立競技場講義室で開催する体育施設管理士養成講習会(基本的構造、管理方法に加えて法律的な事、経済的な事、自然環境保全に関する事、など幅広い範囲に亘って専門知識を解説している)を受講し、認定試験を受験して資格を取得する方法がある。この形態は学生にとって金銭的に大きな負担となるばかりでなく、時間的に制限もあり、受講するには大きな支障がある。

筆者らは、学生が受講しやすい便宜を図れな

いかを思案し、仙台大学会場にて受講並びに受験の機会を設けられる様に2005年7月に(財)日本体育施設協会に陳情した。協会、大学双方において様々な協議を経た結果、2006年6月に認定を受け、2006年9月に「第1回仙台大学体育施設管理士養成講習会」ならびに(財)日本体育施設協会の「認定試験」を実施した。外部の大学で開催することは全国で初めての企画であり、まずは、初めて陳情をした仙台大学(2007)で資格取得事業の企画を試みるようになった。その後仙台大学は、2007年度より資格取得を意識した授業課程を企画し、1年間を掛けて3科目の授業を通して指導し、授業履修後に協会主催の認定試験を学内で開催し、「体育施設管理士」資格取得事業を充実させた。

この試みと同調するが如くに、順天堂大学においても2007年度より「体育施設管理士養成講習会」を授業で取り組み、資格取得事業がスタートした。順天堂大学スポーツ健康科学部の野川春夫(2006)学部長は協会の行う講習会の講師を長く務めており、いわばこの資格取得事業の先駆者の一人でもある。

また、現在はこの2大学に加えて施設協会傘下の地方公共団体の外部団体(公社、事業団、財団など)において資格付与事業が活況を得ている。(財)日本体育施設協会は「体育施設管理士」の資格を充実させる計画をかねてより企画しており、「体育施設管理士養成講習会」の講義の中に設けられていた運営部門の講義を切り離して、さらに内容を充実させた「体育施設運営士養成講習会」を開催した。「体育施設運営士」の資格を付与する教育事業を2006年度より発足させ、「体育施設管理士」と「体育施設運営士」の両方の資格を取得した者に「上級体育施設管理士」の称号を与えることとした。以前取得した「体育施設管理士」の有資格者が更に「上級体育施設管理士」を目指して、「体育施設運営士養成講習会」の受験を大勢の者が希望した為、2006年度は2回にわたって「体育施設運営士養成講習会」が実施された。

最近の「養成講習会」の実情は表1のとおりである。

この現況について、(財)日本体育施設協会

(2009)は次の通り述べている。

現在、単独で養成講習会を開催している大学は、仙台大学と順天堂大学の2校であるが(財)さっぽろ健康スポーツ財団は北海道地区において、(財)広島市スポーツ協会は中四国地区において、順天堂大学と公開講座を共催している。

今年度からは新たな試みとして、(財)世田谷区スポーツ振興財団が東京地区において、日本体育大学と共催して養成講習会を、また同様な形式で、(財)堺市教育スポーツ事業団が関西地区において、大阪近郊の数校に後援を依頼して養成講習会を開催予定しており、大学生を受講対象とした講習会が数多く開催される様子になっている。

大学にとっては、学生の就職活動にもメリットがあり、協会は開催地管内の大学と講師派遣で提携できる利点があり、協会の講習会と同等レベルのカリキュラムが維持でき、継続的に一定の受講生の確保が望めるとしている。

また、指定管理者制度が導入され、自治体は指定管理者として資質の高い管理者・運営者を求めている。そのため、既存の外部団体(公社・財団など)をはじめ、参入する民間企業から当協会の講習会受講者が増えていることから地方開催を実施していると言及している。

Ⅲ. 「体育施設管理士」養成に関する本学の取り組み

2005年度、2006年度の2カ年間「スポーツ施設の経営・管理」の授業の中で5コマを使用して、施設の管理についての概略を解説していた。しかし、限られた時間の中で、幅広い知識が求められる「体育施設管理」の講義をするには時間数が不足しており、絞り込んだ範囲と浅い知識しか講義できなかった。

また、2006年度に開講された「体育施設管理士養成講習会」の内容は協会実施のカリキュラムと同じ科目を、専門用語や管理手法を十分に理解させるために、協会実施の養成講習会の講義時間である17時間を上回る21時間で行った。

協会が行っている養成講習会においては、実務経験の豊富な現場従事者が対象であるため

体育系大学における体育施設管理士養成の必要性 第2報

表1 体育施設管理士養成講習会、「体育施設運営士養成講習会」の最近の推移

主催団体名	養成講習会名		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度		
(財)日本体育施設協会	体育施設管理士	回数、期間	第39回、11月	第40回、5月		第41回、6月 第42回、11月	第43回、11月 第44回、6月 第45回、11月		
		資格合格者数	166名	144名		162名 189名	144名 未定名 未定名		
	体育施設運営士	回数、期間		第1回、6月 第2回、12月		第3回、2月	第4回、2月	第5回、2月	
		資格合格者数		152名 129名		135名	155名	未定名	
	講師構成	協会講師							
受講対象者	主として体育施設関係者								
仙台大学	仙台大学 体育施設管理士	回数、期間	授業で実施、 開催を陳情	授業で実施、 準備中	第1回、夏季	第2回、前期、後期	第3回、前期、後期	第4回、前期、後期	
		資格合格者数			33名	50名	61名	未定名	
	講師構成	学内講師		学内講師、 協会派遣講師	学内講師、協会派遣講師、顧問弁護士				
	受講対象者	学内学生							
順天堂大学	順天堂大学 体育施設管理士	回数、期間				第1回、前期	第2回、前期	第3回、前期	
		資格合格者数				40名	57名	未定名	
	講師構成				学内講師、協会派遣講師、				
	受講対象者	学内学生							
順天堂大学、 (財)さっぽろ健康スポーツ財団	順天堂大学 公開講座 体育施設運営士	回数、期間				第1回、10月	第2回、7月	第3回、5月	
		資格合格者数				50名	61名	未定名	
	順天堂大学 公開講座 体育施設管理士	回数、期間				第1回、10月	第2回、10月		
		資格合格者数				86名	51名		
	講師構成				順天堂大学講師 協会派遣講師、財団職員				
受講対象者	主として道内体育施設関係者								
順天堂大学、 (財)広島市スポーツ協会	順天堂大学 公開講座 体育施設運営士	回数、期間				第1回、10月	第2回、10月		
		資格合格者数				93名	54名		
	順天堂大学 公開講座 体育施設管理士	回数、期間							第1回、2月
		資格合格者数							未定名
	講師構成	順天堂大学講師、協会派遣講師、財団職員							
受講対象者	広島県および近県の体育施設関係者								
(財)堺市教育 スポーツ事業団	体育施設運営士	回数、期間						第1回、8月	
		資格合格者数						未定名	
	講師構成						大学講師、協会講師、財団職員		
受講対象者	大阪近郊の体育施設関係者								
日本体育大学、 (財)世田谷区スポーツ振興財団	世田谷区・ 日本体育大学 公開講座 体育施設運営士	回数、期間						第1回、9月	
		資格合格者数						未定名	
	講師構成						大学講師、協会講師、財団職員		
	受講対象者	区内の学生と体育施設関係者							

に、不足知識の補充や知識の整理をするという目的は、短期間で行われる集中講義で十分に達成される一方で、大学が行う短期集中養成講習会においては、実務経験の乏しい学生が対象であるために、知識を積み重ねながら現場を観察するためには、熟慮を繰り返しながら考え方を創造する学習方法が必要とされ、短期間の日程では達成が困難であった。多人数の受講生に実務経験をつませるためには、様々な創意工夫と講義時間以外にも仕掛けが必要とされる。

過去2カ年間の実践を発展的に充実させて、2007年度より「体育施設管理概論Ⅰ」および「体育施設管理概論Ⅱ」の授業を新設し、従来の「スポーツ施設の経営・管理」に加えて3科目を履修することにより「体育施設管理士」の資格を取得することを目標に実践することになった。

3科目にわたって成績優秀なる修了者に「仙台大学体育施設管理士養成講習会」の修了証を発行することにした。この修了証は(財)日本体育施設協会の養成講習会を免除されることを意味する。

1. 講義の構成

(財)日本体育施設協会(2006)が行う、養成講習会の内容をすべて網羅し、さらに「体育施設管理士」に必要と考えられる項目を追加して、以下の3科目を構成した。

- (1)「スポーツ施設管理概論Ⅰ」……新設科目
- (2)「スポーツ施設管理概論Ⅱ」……新設科目
- (3)「スポーツ施設の経営・管理」…既存の科目を発展させて、協会が行なう講習会の内容を含めている。

授業の内容は講義が中心となるが、数多くの資料と現物見本を揃え、パワーポイントを利用した映像により解説をしている。

また、協会より派遣された幹部による講義も取り入れて、協会の趣旨に同調するように努めている。さらに「スポーツ事故と対策」の科目では、仙台大学の運営母体である朴沢学園の顧問弁護士に講義の担当を依頼して、普段学生が接触することが皆無な弁護士の立場から講義を実施している。この授業は学生にとって貴重な体験となるよう配慮されてある。

内容は表2のとおりである。

表2 授業テーマとその内容

回	スポーツ施設管理概論Ⅰ	スポーツ施設管理概論Ⅱ	スポーツ施設の経営・管理
1	オリエンテーション/授業の概要、目標、計画、成績評価について説明する	オリエンテーション/「体育施設管理士」の資格および「指定管理者制度」について説明する	オリエンテーション/スポーツ施設の概念
2	芝生の造成と維持管理その1	体育館・武道館の維持管理その1	スポーツ施設経営論(体育施設管理士資格重点テーマ)
3	芝生の造成と維持管理その2(構内芝生における実習)	体育館・武道館の維持管理その2	スポーツ施設のマーケティング(体育施設管理士資格重点テーマ)
4	1. スポーツ施設の用器具と維持管理 2. 陸上競技場の構造と維持管理	各種スポーツフロアの維持管理その1	商業スポーツ施設の経営・管理①
5	商業スポーツ施設の経営理念その1	各種スポーツフロアの維持管理その2 ・第1回小テスト	商業スポーツ施設の経営・管理②
6	商業スポーツ施設の経営理念その2・第1回小テスト	野球場の構造と維持管理	商業スポーツ施設の経営・管理③
7	クレー系グラウンドの構造と維持管理その1	サッカー場の構造と維持管理	商業スポーツ施設の経営・管理の実際
8	クレー系グラウンドの構造と維持管理その2(テニスコートにおける実習)	スポーツ施設の音響と維持管理 ・第2回小テスト	公共スポーツ施設の経営・管理①
9	全天候グラウンドの構造と維持管理	スポーツ施設の照明と維持管理	公共スポーツ施設の経営・管理②
10	スポーツ事故と対策	水泳プールの維持管理その1	公共スポーツ施設の経営・管理③
11	整備道具の扱い方について実習(陸上競技場インフィールドにて)・第2回小テスト	水泳プールの維持管理その2(プール機械室にて見学)	スポーツ施設の有効活用
12	スポーツ施設の診断(保全と劣化)・第3回小テスト	水泳プールの維持管理その3 ・第3回小テスト	スポーツ施設と指定管理者制度
13	商業スポーツ施設の経営理念その3	学外施設見学会=スポーツ施設管理の実際	スポーツ施設と指定管理者制度の実際
14	学外施設見学会=スポーツ施設管理の実際	……グランディ・21、又は	公共スポーツ施設の整備の現状と課題
15	……表蔵王国際ゴルフクラブ	……名取スポーツパーク ……はねっこアリーナ	職域としての公共・商業スポーツ施設
16	定期試験	定期試験	

2. 講義以外の構成

各講義の中に組み込まれている実務経験の体得は、基本的に学内スポーツ施設の実習や見学で補充し、さらに学外のスポーツ施設の協力を得て見学会を通して、実際の実務の一端を習得している。以下にその実践例を記載する。

1) 学内実習（講義時間内で年間数回に分けて実施）

(1) 芝生管理…学内に新設したゴルフの Patting Green における高麗芝生と西洋芝の維持管理および噴水周り的高麗芝生の一般的な公園芝生の維持管理

①芝刈り機グリーンモアの運転方法の実演

②散水が均一（維持管理では常に配慮が必要とされる Key Ward）に散布される手法の実演

③粒状肥料を均一に散布する実習（全員）

(2) クレイテニスコート管理…にがり散布の実演と実習(全員)：効率的なスコップの扱い方と均一に散布されるテクニック（スコップの振り方）の伝授

(3) クレイグラウンド管理…鉄製レーキ、木製トンボの扱い方の実演と実習(全員)：道具を通して手元に感じる土の触感を利用した不陸整正の手法

(4) プール機械室の見学…プール水の循環システムの把握と諸機械装置の役割

(5) 管理施設見学…受電・配電システム、給油・給水システムの安全管理対策、衛生管理対策の見学

(6) 体育館見学…講義で解説した管理施設の把握（自習）



〈写真1〉学内実習 芝生管理



〈写真2〉学内実習 クレイテニスコート管理

2) 時間外実習

(1) 芝生管理……ゴルフ場仕様の Patting Green における高麗芝生と西洋芝の維持管理および噴水周り的高麗芝生の一般的な公園芝生の維持管理

①芝刈り機グリーンモアの運転操作体験

②散水が均一に散布される手法の体験

③除草、肥料散布、目土散布、薬剤散布、などの実習

週4回の立会い実習と土曜日の自主実習の組み合わせで、前期と後期それぞれ2回の参加義務を課している。

3) 学外スポーツ施設見学

表蔵王国際ゴルフクラブ見学を「スポーツ施設管理概論Ⅰ」の授業2コマ分を充てて、5月から7月に実施している。宮城県総合運動公園見学を後期「スポーツ施設管理概論Ⅱ」の授業3コマ分を充てて、11月から12月に実施している。この日程に都合が付かない学生に対して、名取スポーツパーク見学を2コマ分充当し、はねっこアリーナ見学を1コマ分充当として実施している。

このスポーツ施設見学会は、大勢の学生が一度にスポーツ施設を訪問すると施設側に迷惑が掛かる事と、学生の都合が多岐にわたるために、土曜日に数回に分けて分散開催としている。

(1) 宮城県総合運動公園（グランディ・21）
見学

2001年の国体と2002年のサッカーワールドカップのために建設された、総合運動公

園であり、規模とグレードにおいて県内ナンバーワンである。公園内の総合体育館、プール施設、1種公認陸上競技場（ワールドカップ上級クラスの試合が招致できる天然芝生のサッカー場を含んでいる）、投擲場、サブグラウンド、トレーニングルーム、屋外テニスコート、総合管理室などの見学と解説を通じて下記の授業で取り上げている項目についての実務を学ぶ。公共スポーツ施設の経営管理の視点からも見学題材は多い。

- A. 体育館の維持管理
 - B. 各種スポーツフロアの維持管理
 - C. 屋外スポーツ施設の維持管理
 - D. 水泳プールの維持管理
 - E. スポーツ施設の照明、音響、用器具、と維持管理
 - F. 芝生の造成と維持管理
- (2) 表蔵王国際ゴルフクラブ見学

県内でも伝統のある屈指のゴルフクラブであり、かつてはテレビ放映されたトーナメント競技も行われていた。商業スポーツ施設の経営管理の視点からも見学の意義がある。Patting Greenとコース内一部を実地見学し、グリーンキーパーの責任者から解説を聞き、ゴルフ場概観と芝生の維持管理について見聞を広げる。さらに、施設管理部署において、芝生維持管理の為の様々な機械やPatting Greenに目土として用いる焼き砂（雑草の種を焼き殺す為）造成装置、芝刈り機刃先研磨機等を見学する。

(3) 名取スポーツパーク見学

東北電力が厚生施設として建設した全国でも有数の規模とグレードの総合運動場であり、運営企画は社内ベンチャーである子会社が担当している。商業スポーツ施設の経営管理の視点からも見学の意義がある。

3種公認陸上競技場（かつてのバブル時代は1種公認であった）、野球場、天然芝サッカー・ラグビー場、多目的運動場（クレイグラウンド）、砂入り人工芝テニスコート12面、多目的公園、大規模駐車場、プレールームなどを見学し、スポーツ施設の

維持管理の様々な手法と民間企業が運営するスポーツ施設の実態を知る。

(4) はねっこアリーナ(大河原町営総合体育館)

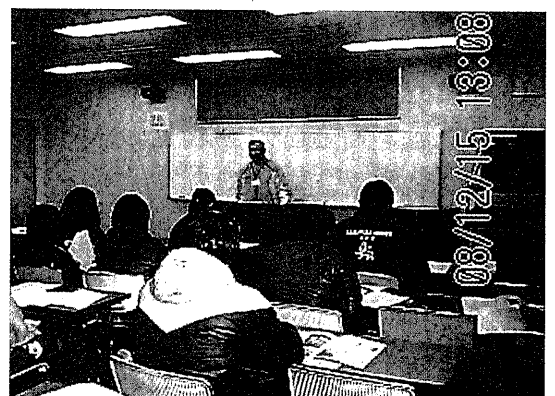
大河原町営の総合体育館で、現在は指定管理者制度に基づいてNPO法人が管理運営している。町クラスの公共スポーツ施設の経営管理の視点からも見学の意義がある。

体育館と併設された武道場やトレーニングルームの見学と解説を通じて、下記の授業において取り上げている項目についての実務を学ぶ。

- A. 体育館の維持管理
- B. 各種スポーツフロアの維持管理
- C. スポーツ施設の照明、音響、用器具、と維持管理



〈写真3〉学外スポーツ施設見学
表蔵王国際ゴルフクラブ



〈写真4〉学外スポーツ施設見学
はねっこアリーナ

3. 講義を離れた特別企画

授業で講義している内容は概論が主になっており詳論には踏み込めていない。そこで、授業

の受講生の中で興味を持っている学生や、クラブ活動と密接に関連している事項についてさらに詳しい知識を解説することがより一層この教育事業の完成度を高め、学生の資質の向上に寄与する事と考えられる。

仙台大学における、スポーツ施設の新設工事と、改修工事に合わせて、特別企画を設けた。その事例を2例紹介する。

1) バスケット・ラボ建設工事企画設計会議聴講

2007年秋から2008年1月に掛けて開催されたバスケット専用体育館建設企画設計会議に、2006年度に体育施設管理士の資格を取得した学生3名を参加させた。2008年度卒業のこれら3名の進路は、高校の教員、物流施設管理会社、大学院進学であった。

この会議は、施主である大学側、施設を利用するクラブの監督、設計会社、建設施工会社および部門ごとに担当する専門工事会社の構成で成り立っている。利用する立場の要望、費用を負担する立場の施主の考え、デザインや構造強度計算など設計上の問題、施工

上の技術管理、品質管理、工程管理、安全管理など、ひとつの命題に関して様々な意見が多岐に亘って交換された。

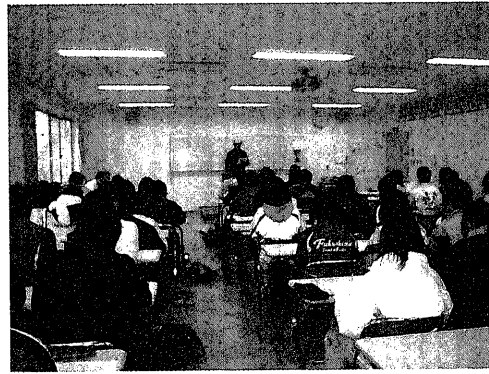
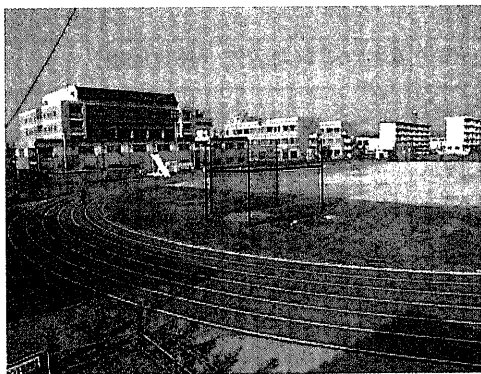
2) 陸上競技場3種公認更新工事見学会

2009年6月に期限が切れる陸上競技場の3種公認を更新するために、施設改修工事を2008年秋から着工した。主な改修は、ウレタン表層の全面張替え、ウレタン表層膨れ現象予防のための抜気管理設工事、投擲場、跳躍場の全天候表層拡大工事、陥没走路基盤整備、ハンマー投げ囲い改修工事などである。

工事の進捗を横目で見ながら、練習をしてきた陸上競技部部員と2008年度の「体育施設管理士」養成としての授業の受講生たち約40名を集めて、ほぼ工事完成時点の3月に見学会を開催した。

普段何気なく使用したり、改修工事を観察してきたりした事に対して詳細を解説し、施設の構造と維持管理について学習した。その内容は下記の広報紙紹介記事の通りである。

5年に一度 第三種公認 全天候型陸上競技場全面改修



完成前の3月25日には、小島体育施設管理コンサルタントによる座学が開かれ、陸上競技部の学生約40名と、スポーツ施設管理概論受講生などが熱心に受講しました。[中略]

横川教授からは、開学当時の写真なども紹介され、「使用頻度の高い陸上競技部だからこそ、他の学生の模範となるよう、施設の管理も含め大事に使用してほしい」と話されました。

IV. 「体育施設管理士」資格に関する学生の動向

「体育施設管理士」資格取得の必要性について

では、第1報で述べたが、2007年度から取り組んだ授業を通しての資格取得事業について仙台大学の学生はどのように考えているか質問紙調査で整理してみる。

1. 講義で実施した質問紙調査

第1報で報告した2項目について、2007年度から2009年度にわたって継続して調査した結果を報告する。

1) 受講生に関わる受講の動機

受講の動機は表3のとおりである。

3年間の前期開始時点における調査を通して、「資格取得」の意識が3年間を通じて、76.7%~86.3%と圧倒的に高い数値を示している。多くの学生が資格を取得して就職活動に役立たせようとの考えが窺える。

表3 「スポーツ施設管理概論 I」の受講生の受講動機（複数回答）

年 度	1	2	3	4	5	合計	回答枚数	回答率
	資格取得	興味がある	未来に役立つ	就職活動	その他		配布枚数	
2007 前期開始時	105	21	15	3	0	144	127	96.2%
	82.7%	16.5%	11.8%	2.4%	0.0%	113.4%	132	
2008 前期開始時	99	24	16	10	1	150	129	89.6%
	76.7%	18.6%	12.4%	7.8%	0.8%	116.3%	144	
2009 前期開始時	151	21	19	6	0	197	175	97.8%
	86.3%	12.0%	10.9%	3.4%	0.0%	112.6%	179	

2) 受講生に関わる就職希望先

就職希望先は表4のとおりである。

3年間の前期開始時点における調査を通して

①「教員」については26.2%~36.3%であり、2009年度において数値が向上している。
②「体育施設関連」については30.4%~35.0%の学生が希望している。

表4 「スポーツ施設管理概論 I（前期）」の受講生の就職希望先（複数回答）

年 度	1	2	3	4	5	6	合計	回答枚数	回答率
	教員	体育施設関連	民間会社	公務員	その他	進学		配布枚数	
2007 前期開始時	38	43	18	6	22	6	133	123	93.2%
	30.9%	35.0%	14.6%	4.9%	17.9%	4.9%	108.1%	132	
2008 前期開始時	34	42	19	36	19	3	153	130	90.3%
	26.2%	32.3%	14.6%	27.7%	14.6%	2.3%	117.7%	144	
2009 前期開始時	62	52	41	35	18	6	214	171	95.5%
	36.3%	30.4%	24.0%	20.5%	10.5%	3.5%	125.1%	179	

分類は仙台大学案内掲載の体育学科の就職状況を参考とした

2. 受講者数と合格者数の変遷

3科目の授業の受講生と合格者の最近の推移は表5のとおりである。

2007年度から授業として取り組んでいる「仙

台大学体育施設管理者養成講習会」にかかわる授業の履修者は98名~168名であり多くの学生が登録している。この「講習会」に関わる3科目は体育学科3年生（約300名が在籍）が対象

表5 「体育施設管理士養成講習会」に関わる授業の受講生と合格者の最近の推移

年度	区 分	1	2	3	4	5
	授業科目名	履修者	修了者	受験者	合格者	合格率
2006	第1回管理士養成講習会	35	33	33	33	100.0%
2007	スポーツ施設管理概論 I	143	133	51	50	98.0%
	スポーツ施設管理概論 II	113	92			
	スポーツ施設の経営・管理	168	136			
2008	スポーツ施設管理概論 I	132	123	61	61	100.0%
	スポーツ施設管理概論 II	98	94			
	スポーツ施設の経営・管理	150	129			
2009	スポーツ施設管理概論 I	186				
	スポーツ施設管理概論 II					
	スポーツ施設の経営・管理	219				

注：履修者は放棄した者を含まない、2009年度は暫定数

であり、選択科目であるが、高い比率の学生数が履修している。

2009年度の「スポーツ施設管理概論 I」と「スポーツ施設の経営・管理」の履修登録（暫定）は186名～219名であり、過年度に対して、大幅に増加した。2008年度の合格者は対前年比22.0

%の増加となっている。これらのことから、「体育施設管理士」養成に対して、学生の高い関心が窺える。(株)体育施設出版(2009, 2008, 2006)は月刊体育施設に、それぞれの年度の合格者名を掲載している。

表6 見学会に関する質問紙調査

見学施設名	1	2	3	4	5	6	7	合計
	普段見ることが出来ない場所を見学できた	初めて知った事が沢山あった	見学会は役に立った	施設を大切に心がけが身に付いた	説明は十分に理解できた	自分の資質が向上したと思った	見学会は充実感を感じた	
グランディ・21 2008年度	4.82	4.57	4.32	4.11	4.20	3.96	3.89	4.27(54)
表蔵王国際ゴルフクラブ 2008年度	4.31	4.29	3.96	3.92	3.77	3.87	3.77	3.98(52)
表蔵王国際ゴルフクラブ 2009年度	4.70	4.57	4.43	4.34	4.16	4.16	4.15	4.36(74)
名取スポーツパーク 2008年度	4.61	4.09	4.04	4.35	3.96	4.17	3.83	4.15(23)
はねっこアリーナ 2008年度	4.31	4.46	4.46	4.31	4.31	4.23	4.23	4.33(13)
合 計	4.60	4.44	4.25	4.18	4.06	4.05	3.96	

5段階尺度 1：全く当てはまらない、2：当てはまらない、3：どちらともいえない、4：少し当てはまる、5：とても当てはまる

3. 学外スポーツ施設見学会で実施した質問紙調査

4箇所の学外スポーツ施設で見学会を行っており、2008年度から質問紙調査を行った。質問紙調査は「貴方は見学会に参加して下記の質問に関してどのように感じましたか?」と問い、

1. 資質の向上、2. 見学会に対する充実感、3. 新しい知識、4. 見学会の有効性、5. 普段見ることの出来ないところの見学、6. 施設を大切に作る心がけ、7. 見学会の理解度、について質問し、質問項目は表6にある7つの質問項目とし、回答は5段階尺度により求めた。

全体的に高い数値を示し、学外見学会は、学内学習だけでは身に付けられない貴重な事柄を体験できた事を示している。

4. 授業内容に関する質問紙調査

「スポーツ施設管理概論Ⅰ」と「スポーツ施設管理概論Ⅱ」について、2007年度から前期授業で「アンケート1」を質問紙調査し、後期授業に「アンケート2」を追加した。

質問紙調査は「授業全体について、どのように思ったり、感じたりしましたか?」と問い、

1. 資質の向上、2. 授業に対する満足度、3. 新しい知識、4. 見学会の有効性、5. 学ぶべき多くのこと、6. 授業内容の理解度、7. 実習の有効性、8. 授業が資格取得を目標にしている是非について質問し、質問項目は表7にある8つの質問項目とし、回答は5段階尺度により求めた。

表7 授業内容に関する質問紙調査

年度	授業科目名	アンケート1				アンケート2			
		1	2	3	4	5	6	7	8
		新しい知識を得ることが出来た	多くのことを学ぶことが出来た	授業の内容はよく理解できた	総合的に判断して、授業に満足している	実習は役に立つ	学外施設見学会は役に立つ	授業は自分の資質向上になった	授業が資格取得を目標にしている事は良かった
2007	スポーツ施設管理概論Ⅰ(N=94)	4.05	3.76	3.33	3.15				
	スポーツ施設管理概論Ⅱ(N=60)	4.40	4.28	3.53	3.60	3.70	3.88	3.78	4.13
2008	スポーツ施設管理概論Ⅰ(N=83)	4.27	4.13	3.68	3.84				
	スポーツ施設管理概論Ⅱ(N=69)	4.42	4.33	3.94	4.12	3.97	3.94	4.03	4.30

5段階尺度 1:全く当てはまらない、2:当てはまらない、3:どちらともいえない、4:少し当てはまる、5:とても当てはまる

全体的に、学外見学会ほど高い数値を示していないが、半数の項目で4.0ポイントを超えており、やや高い数値を示している。「新しい知識を得ることが出来た」と「授業が資格取得を目標にしていることが良かった」が高い数値を示しており、「資格取得」に強い意識を感じられる。

5. 授業を離れた特別企画の評価

1) バスケット・ラボ建設工事企画設計会議聴講
スポーツ施設の建設をめぐる活発な審議

を聴講した3名の学生は、社会で行なわれている企画設計会議の進行や審議の内容に驚きと深い感銘を得ることが出来たようである。

会議に出席しての感想文は以下のとおりである。

学生 A

体育館などに興味があり「上級体育施設管理士」の資格を取得しておりましたが、はっきり言ってどうやって体育館などの施設が出来るのかは知りませんでした。

会議に出席してみても一言で言えば、「驚き」でした。施設の図面を囲んで会議が進み、会話の中に出てくる専門用語が新鮮に感じつつ、この会議を繰り返すことで施設が出来ていく過程が在ると思うと、学校側、建築士の方、工事担当側と色々な方達から作り上げていくのを実感しました。

[中略]

僅かの時間で体験でしたが、施設の計画や建設は、大勢の方々の協力のお蔭であることを知り自分を含めもっと使用する人を知ってもらいたいと思いました。

学生 B

体育施設管理士を取得した後に勉強する機会があまり無かったので、貴重な体験が出来たと思っています。

[中略]

品質を上げていけば理想の施設を上げることが出来るが、コストがかかる。反対にコストを掛けないと品質は落ちてしまい理想とは遠い施設になってしまう。そのために利用者側の希望、お金を支払う側の希望、建築にかかわる専門家からのいろいろな意見が合致するところを探っていかなければならないと強く感じ、そのためにこのような機会が多く設けられることの重要性を改めて実感した。体育施設を建設するのに多くの専門家がかわって構築されていくことがひしひしと伝わってきました。

今回の会議に出席したことは、講義からでは学ぶことの出来ないものであると感じています。今後授業の中でこのような体験が出来る環境があれば、より充実した内容になっていくと思います。

2) 陸上競技場3種公認更新工事見学会

スポーツ施設新設工事見学会は、第1報に記載した第四体育館見学会に続く2回目となったが、それぞれの参加者には好評であった。

II. まとめ

1. 社会的情勢

- 1) 「体育施設管理士」の資格養成講習会の推移は表1に示したとおり、2005年度までは(財)日本体育施設協会が本部(東京)でのみ養成講習会を開催していたが、2006年度に仙台大学が率先して協会以外の地方で、全国で初めての試みとして開催した。

そのことが契機になり各地区の協会傘下の団体(公社、財団など)で資格養成講習会が開催され、年を重ねるごとに増加している。各地区における体育系大学は、共催もしくは後援として(財)日本体育施設協会と協力して養成講習会を通じて、人材養成事業を行っている。

- 2) (財)日本体育施設協会は2つの養成講習会のうち「体育施設運営士」の養成講習会を各地区で行われている講習会で先行しているが、その理由はすでに「体育施設管理士」を抱えている現場の体育施設関係者の求めと、講師の招集など講習会開催実施の簡易さにある。しかし、大学など実務経験のない学生に対しては基本的に「体育施設管理士」の資格取得を基本と考えている。
- 3) 第1報で示したとおり、2006年のプール事故とその後の体育施設や器具などの事故の発生により、体育施設に関して、資質の高い管理者の配置と適切な管理運営体制を求める世論が大いに喚起されている。

2. 学生の動向

- 1) 受講の動機として、「資格取得」の意識が76.7%~86.3%と高い数値を示している。
- 2) 就職希望先は「教員」と「体育施設関連」が30%前後と高い数値を示している。
- 3) 修了者は大幅に増加しており、合格者は対前年比22.0%の増加となっており、この「体育施設管理士」の資格取得に対する学生の意欲が高いことを示している。
- 4) 学外スポーツ施設見学会や、授業内容に関する学生の評価については高い数値を示している。これらの事から本学の学生は、「体育施設管理士」の資格取得に強い意欲を感じられる。

3. 今後の課題

- 1) 多人数による実習

多数の受講生に、効率よく中身の充実した実習を行なう手法の検討が課題として残り、小クラスに分けて行なうことやティーチングアシスタントの活用が考えられる。

2) 研究会の発足や卒論での取り組み

概論の講義に実際の体験を習得するために、実習を多く取り入れているが、詳論を迫るためには、研究会の発足や卒論での取り組みが期待されるところである。

3) 新設時の企画会議参加

講義では体験できない社会の仕組みや工事が進行していく過程を知ることは、貴重な体験となり、他の中規模のスポーツ施設建設時にも企画が考えられる。

4) 「体育施設運営士」養成講習会の実施

(財)日本体育施設協会が「体育施設管理士」の資格を更に充実させる為に「体育施設運営士」の資格を設けた経緯があるので、本学においても今後「体育施設運営士」の資格取得事業に取り組むことが課題として考えられる。

うになった経緯等について。(財)日本体育施設協会、協会発行文書、2009年6月17日発行。

小島文雄・永田秀隆(2007)体育系大学における体育施設管理士養成の必要性—仙台大学を事例として—。仙台大学。仙台大学紀要、Vol.39, No.1:84-94。

仙台大学(2007)体育施設管理士資格の取得。仙台大学体育学部。学生便覧、Vol.2007年度、147-148。

(株)体育施設出版(2006)日本体育施設協会だより、仙台大学と札幌市において資格講習会を実施。月刊体育施設12月号、Vol.35, No.15:76-77

(株)体育施設出版(2008)日本体育施設協会だより、体育施設管理士・運営士の合格を発表。月刊体育施設4月号、Vol.37, No.5:76-77

(株)体育施設出版(2009)日本体育施設協会だより、体育施設運営士合格者などを発表。月刊体育施設4月号、Vol.38, No.6:74

謝 辞

本資料をまとめるにあたり、「体育施設管理士」の資格取得に関する資料とご指導をいただいた(財)日本体育施設協会 柗 巖 常務理事ならびに職員の皆様に心より感謝申し上げます。

付 記

本研究は、仙台大学「研究計画に基づく研究費」による研究(2006年度～2008年度)の一部として行われた。

参考文献

野川春夫(2006)スポーツ施設のマネジメント(総論)。(財)日本体育施設協会。第1回体育施設運営士養成講習会、No.1:8-14。

日本体育施設協会(2006)「第40回体育施設管理士養成講習会」テキスト。(財)日本体育施設協会

日本体育施設協会(2008)平成18年度事業報告。(財)日本体育施設協会。「平成19年度要覧」、No.19:42-43

日本体育施設協会(2009)地方で講習会を開催するよ